

笑門
 笑門

生活支援体制整備事業とは？

- ◆妻が言うひとまず預かる給付金
- ◆円満の秘訣ソーシャルディスタンス
- ◆テレワークやってみたいが俺無職
- ◆脳トレを毎日してます探し物

第20回 シルバー川柳入選作品

全国有料老人ホーム
協会発表：一部抜粋

◆妻の留守たっぷり醤油寿司刺身

◆武勇伝俺の話は無観客

◆入らない母の入歯で騒ぐ父

◆我が家では濃厚接触とんとなし

このため、厚生労働省においては、2025年を目途に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。（厚労省ホームページより一部引用）

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進んでいます。65歳以上の人口は、現在3,600万人を超えており（2020年9月15日現在推計）、2042年の約3,900万人でピークを迎えますが、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。

このような状況の中、団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれ、その結果、介護の担い手減少、一人暮らし世帯の増加、認知症患者の増加など、社会が大きく変わり続けます。

このため、厚生労働省においては、2025年を目途に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。（厚労省ホームページより一部引用）

折戸区支え合い新聞

発行
日進市
社会福祉協議会
(第1層生活支援コーディネーター)
日進市蟹甲町中島22
電話 0561(73)4885

介護の担い手
がいなくなる?
→なぜ?

施設に入れ
なくなる?
→なぜ?

家族には迷惑を
かけたくない
→どうしよう?

事業説明の
ご要望は
日進市社会福祉協議会
0561(73)
4885

今日の紙面

生活支援体制整備事業とは?
「支援する側」と「支援される側」は
もう古い!
各地で進む支え合い・健康づくり・コロナ対策
みんな欠かせない主役

「支援する側」と「支援される側」はもう古い！？

「私は支援される側だから何もできない」という声がよく聞かれます。でも、それはこれまでの話かもしれません。

生活支援体制整備事業ができた背景には、急激な増加が予想される要支援者などについて、掃除や買い物などの生活行為の一部は難しくなつても、身の回りの生活は自立している場合が多いことから、「支援する側」と「支援される側」という分け方ではなく、地域参加や趣味を続けることで、結果として介護予防になっていくという支援が重要だと位置づけられたことがあります。

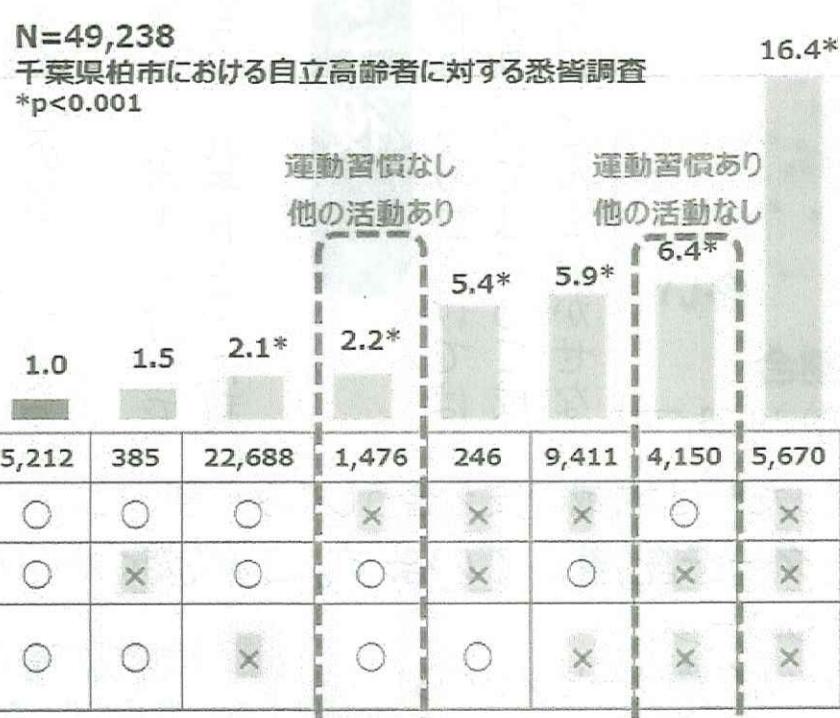
生活支援体制整備事業の支え合いについて、国は、支え合いの内容を決めておらず、担い手は地域住民と位置づけています。

「国民に対する丸投げだ！」という意見もありますが、制度が始まつて6年。「支援する側」「支援される側」を見直し、支え合いが進んできた市町村とななかなか進まない市町村がみられるようになりました。

「情けは人の為ならず」は、下記のような統計でも結果がでており、運動よりも人のつながりが健康に好影響を与えることを示しています。

フレイル予防には「人とのつながり」が重要

- 様々な活動の複数実施とフレイルへのリスク -



日進市版

各地で進む 支え合い・健康づくり・コロナ対策

【坂の上カフェ】

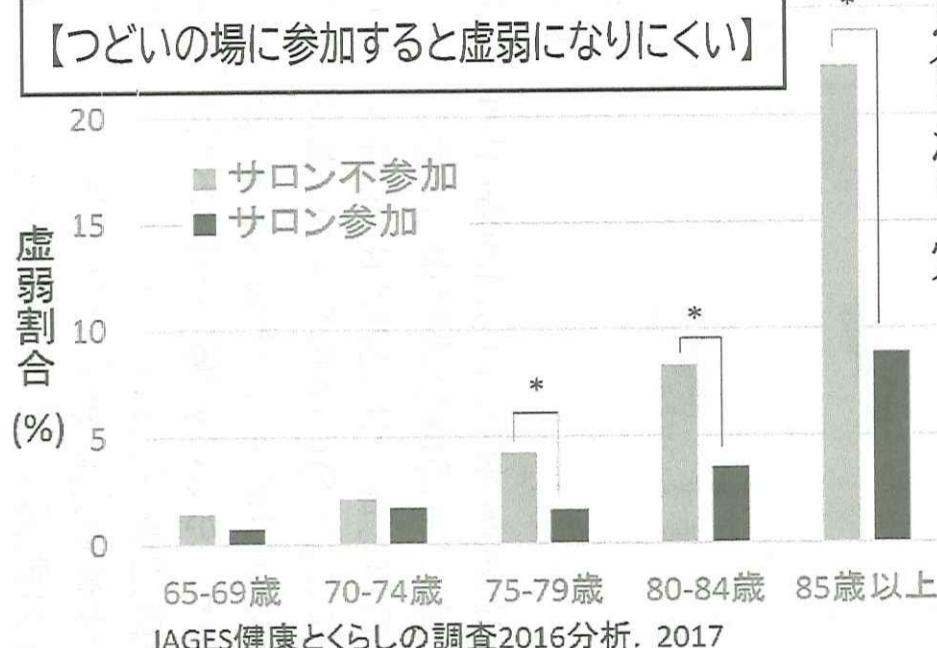
日進ニュータウンほつとカフェ「坂の上カフェ」は、4月にほつとカフェを再開しました。

場所は、いつもの集会所から200m離れた北山ふれあい広場。集会所と広場間をスタッフが、何回も何回往復しながらコーヒーポットを運び、参加者にふるまいました。

受付のスタッフは、検温と手指消毒を促して、コーヒーを混ぜるスプレーも共有しないというコロナ対策も徹底していました。

久しぶりに再会した参加者は、自粛期間中の様子を伝え合ったり、冗談を言い合ったりとあちらこちらで笑い声が聞こえました。

「家に閉じこもりばかりで、気が滅入っていたので本当にうれしい」と話す参加者も。ちなみに、つどいの場等に参加する方は、参加しない方に比べて虚弱になりにくいという追跡結果もあります。(下図)



【買物支援（南ヶ丘福祉まちづくり協議会）】

免許返納者や買い物が困難な地域住民を、近所のスーパーまで乗り合い方式で送迎する取り組みを始めたのは、南ヶ丘福祉まちづくり協議会の有志のみなさん。

南ヶ丘の団地内数カ所で利用者を乗せた後、最寄りのスーパーと日進駅まで送迎する車の名前は『くるるんるん号』。「るんると楽しくおでかけしてほしい」という有志の思いが詰まっています。

こちらも乗車前の検温と手指消毒などのサポート付きです。週に1回使う方も、週に2回使う方も、それぞれ上手に利

用しているようです。

みんな欠かせない大切な主役

坂の上カフェもくるるん号も、主役はスタッフだけではありません。どちらの支え合いも、利用者がいてはじめて成り立つ「支え合い・助け合い」で、参加者の皆さんも欠かせない主役です。

社会参加する人が多い市町

ほど、もの忘れがある人が少ないことがわかっています。(下図)

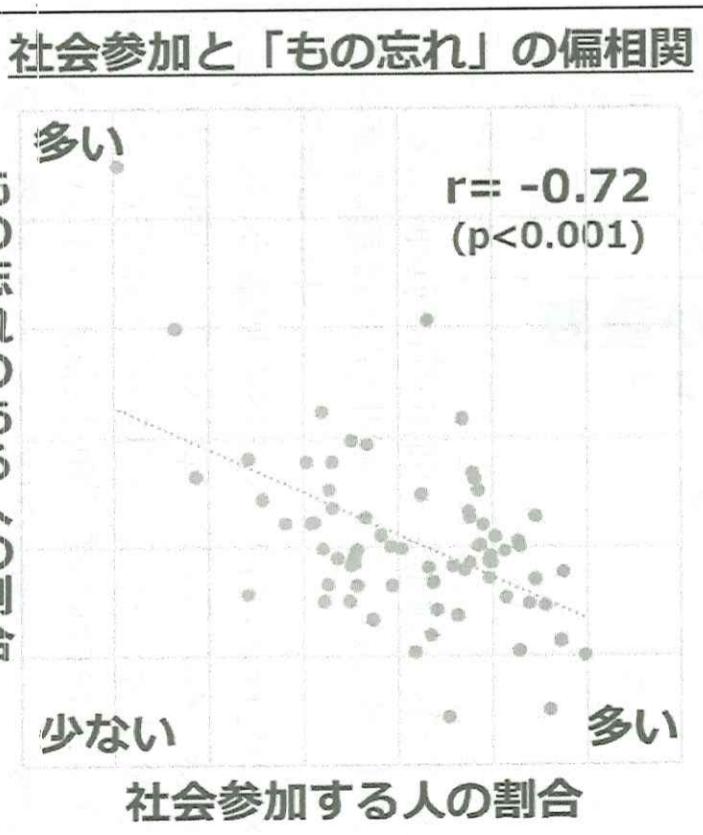
何気なく行っているカフェへの

参加や移動支

援の利用は、地

域のもの忘れす

く影響しています。これも大事な「支え合い」です。



報道発表 Press Release No: 189-19-23

コロナウイルスによる高齢者への影響は、感染する一次被害と長期間の自粛生活による二次被害があると千葉大学の近藤教授は警鐘を鳴らします。外出や人との交流が減り、転倒や骨折、うつ病、認知症のリスクが高まる。トとも言える。恐れるべきはウイルスであって、人ではない」と人権教育啓発推進センター・田南専務理事は伝えています。感染症を正しく理解して行動することで、数年先の自分の健康づくりと住みやすい地域づくりを少しずつしていきませんか。

これからは、要支援・要介護の方お元気な方も、困った時は地域で支え合うしくみを創っていく必要があります。

【各地域にしきみづくりのコーディネーターを配置しています。ご相談ください。】

中部地区担当:荒川(0561-72-5028:(有)はじめの一歩)

東部地区担当:浅野・村居(0561-75-5105:NPO法人介護サービスさくら)

西部地区担当:池谷(0561-74-0775:(株)アンジュ)

市全域担当:富岡・松本(0561-73-4885:日進市社会福祉協議会)

「地域にある支え合い」や
「あつたらいいなと思う支え合い」を
コーディネーターに教えてください。